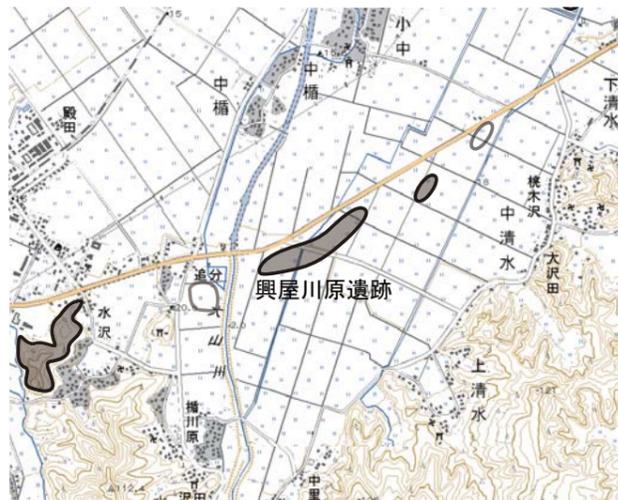


こうやがわら 興屋川原遺跡発掘調査現地説明会資料

2006年8月27日(日)

財団法人山形県埋蔵文化財センター



遺跡位置図

1 調査の概要

興屋川原遺跡は、日本海沿岸東北自動車道建設に先立ち、県教育委員会が実施した分布調査で新規に発見された遺跡です。同時に万治ヶ沢遺跡、木の下館跡、行司免遺跡、玉作1遺跡、玉作2遺跡、岩崎遺跡、南田遺跡などが新規登録遺跡として登録されています。これらの遺跡は日本海沿岸東北自動車道の用地内に所在するため、日本道路公団東北支社(現 東日本高速道路株式会社東北支社)と山形県教育委員会で遺跡の取り扱いについて協議がなされ、財団法人山形県埋蔵文化財センターに建設工事で破壊を受ける部分を記録保存のために緊急発掘調査を委託することで合意に至りました。

これを受け、16年度当センターは、これらの遺跡で第1次調査を実施し、遺跡のさらに詳しい情報を収集しました。その結果、興屋川原遺跡は古墳時代と平安時代の広大な遺跡であることが分かり、昨年度と今年度の2年間にわたり現地調査をおこなうことになりました。

2 立地と環境

興屋川原遺跡は庄内平野の南西端部に位置し、鶴岡市街地から南西へ約10kmの鶴岡市田川地区と大泉地区にかけて所在します。遺跡は大山川右岸の沖積地上に立地し、周辺の地目は水田や畑地で、標高17mを測ります。かつてこの辺りは東西方向に自然堤防などの微高地と後背湿地などの低湿地が入り乱れる複雑な地形でした。圃場整備以前は深田であったものが、現在は大型機械に対応した整備された圃場となっています。しかし調査区の中には、これらの圃場整備により削平を受けた箇所も確認されています。

また、平安時代と古墳時代の遺構検出面が同じであるため、現在の地表面は遅くとも古墳時代には成立し、現在までほぼ変わっていないと思われます。

調査対象区は農道、水路で分割されているため、これらを便宜的にA区からG区までの7ヶ所に分けて進めました。昨年度はA区(平安)、B区(平安)、C区(古墳・平安)、D区(平安)、E

調査要項

遺跡名	興屋川原遺跡
遺跡番号	平成16年度登録
所在地	山形県鶴岡市大字田川字興屋川原
調査委託者	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設事業
調査面積	4,750㎡
現地調査	平成18年5月8日～平成18年9月22日
遺跡種別	集落跡
時代	古墳時代・平安時代
遺構	掘立柱建物跡・溝跡・土坑・ピット
遺物	土師器・あかやき土器・須恵器
調査担当者	調査第三課長 渋谷孝雄 専門調査研究員 黒坂雅人 調査研究員 齋藤 健(調査主任) 調査員 吉田江美子
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会



区西側(古墳・平安)を対象としました。今年度は引き続きE区東側、F区、G区の調査を実施しています。

3 遺構

昨年度の調査では、古墳時代と平安時代の河川跡・掘立柱建物跡・土坑・井戸跡・柱穴などが見つかりました。

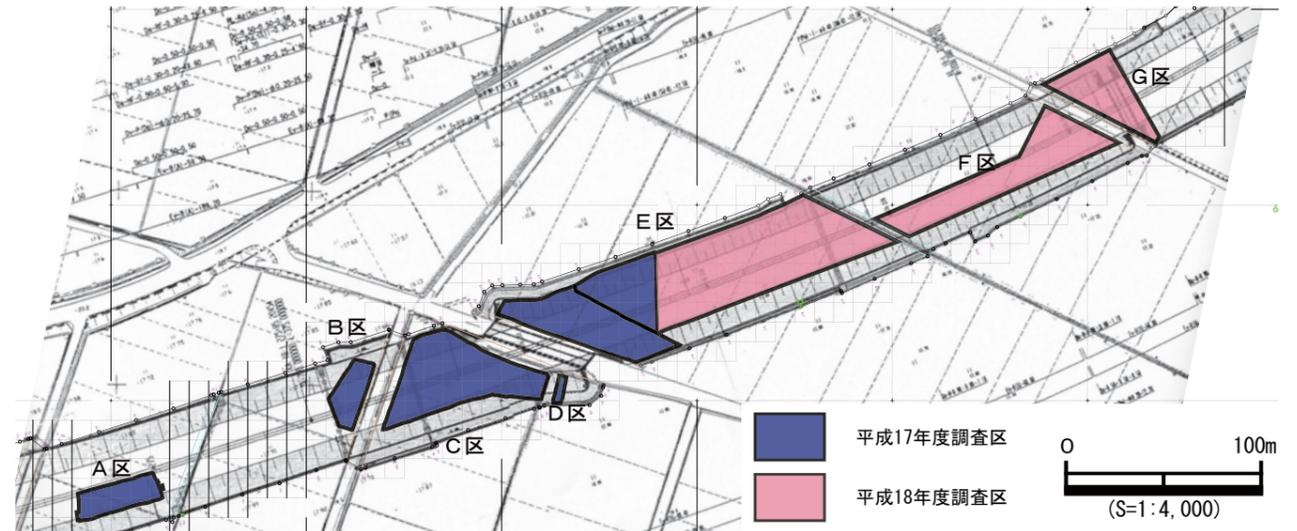
今年度の調査では、微高地となっているE区東側とF区東側に古墳時代と平安時代の遺構が集中して検出されました。また、近世以降の水路跡も検出されています。

特に、F区東側からは柱間が2間×3間の大型の掘立柱建物跡が「コ」の字状に整然と立ち並んでいたことがわかりました。これらの建物は一般の集落跡には通常無いもので、官衙など公的機関によく見られるものです。昨年度もE区西側の河川跡周辺からも大型の掘立柱建物跡が検出され、それらの建物との関連や、どのような施設であったかが今後の検討課題です。

古墳時代遺構検出状況(古墳時代)



柱穴の断面(平安時代)



調査区概要図

また、E区東側からは近世から近代にかけての用水路跡も検出されています。

3 遺物

昨年度の調査では、古墳時代の遺物は土師器、須恵器の他、勾玉や子持勾玉などが出土しました。平安時代の遺物は土師器、あかやき土器、須恵器の他、河川跡から多数の木製品が出土しています。

今年度の調査では、昨年度と同じく古墳時代の土師器や須恵器と平安時代の土師器、あかやき土器、須恵器といった遺物が出土しています。昨年度のように遺物が集中的に出土する遺構が検出されていないので、出土した遺物の量は昨年度を下回っています。

古墳時代の土坑からは集落遺跡では珍しい刀子が出土しました。伴出する遺物が古墳時代であるためこの刀子も古墳時代のものである可能性が強いと考えられます。

また、近世からの用水路跡からは江戸時代後期から近代にかけての陶磁器が出土しました。

4 まとめ

昨年度からの本調査で興屋川原遺跡については以下のことがわかりました。

興屋川原遺跡は大きく分けると古墳時代と平安時代の二つの時代の人々の暮らしの跡が見つかりました。

古墳時代は出土した遺物から、5世紀後半から6世紀にかけての時期と見られます。



刀子出土状況(古墳時代)

平安時代は昨年度、2本の河川が重複し9世紀と10世紀の遺物が出土したことから、9世紀と10世紀の二つの時期に人々が住んでいたことがわかりました。

古墳時代も平安時代もほぼ東西方向に伸びる自然堤防上に遺構が集中し、後背湿地には人々の生活の痕跡を確認できませんでした。このように、当時の人々が微高地上に生活を営んでいたことがわかりました。

また、古墳時代の遺構はまだ詳細は不明ですが、昨年度に勾玉や子持勾玉といった通常の集落ではあまり出土しない遺物が出土していることや、菱津に古墳があったことがわかっていたり、矢馳など大山地区に大規模な集落が営まれていたこともわかっていて、古墳時代の清水地区にも多くの人々が生活していたと思われます。

平安時代は、昨年度調査したE区西側の河川跡検出地区、E区東側の柱穴集中地区、F区東側の大型建物跡集中地区の三箇所に遺構が集中しています。

それぞれの地区で遺構の性格が異なるようなので、当時はそれぞれの地区の利用の仕方に差があったようです。

これら昨年度と今年度の調査成果をもとに、今後調査成果をまとめ、他の周辺遺跡との関係などを検討していきます。



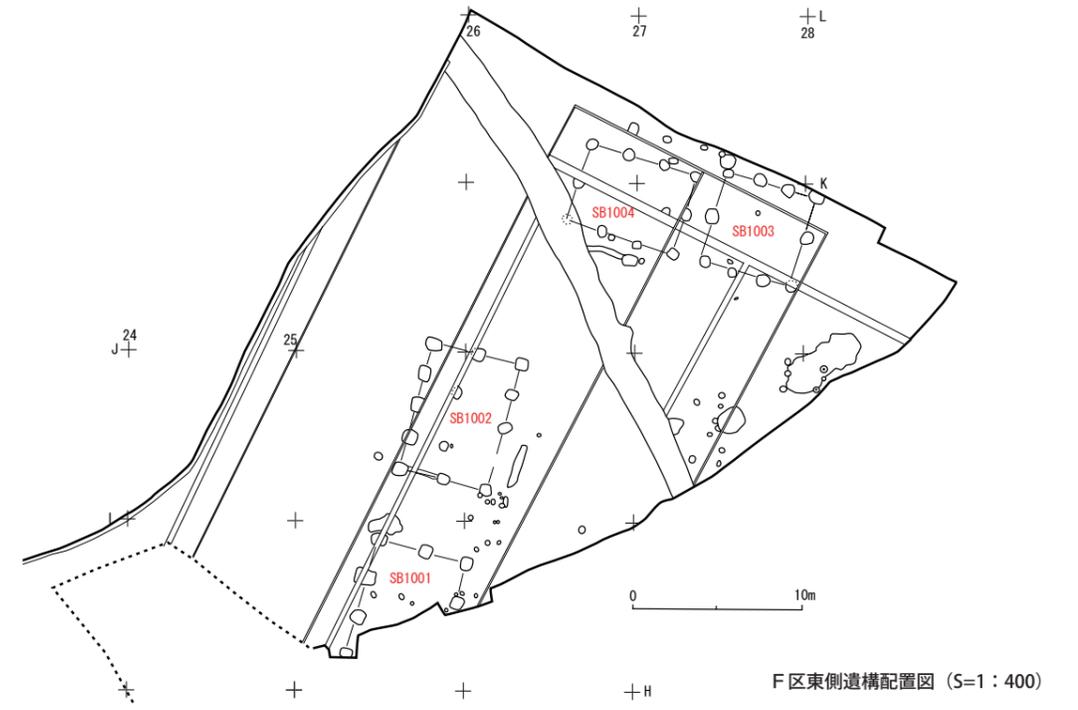
柱穴から須恵器壺出土状況(平安時代)



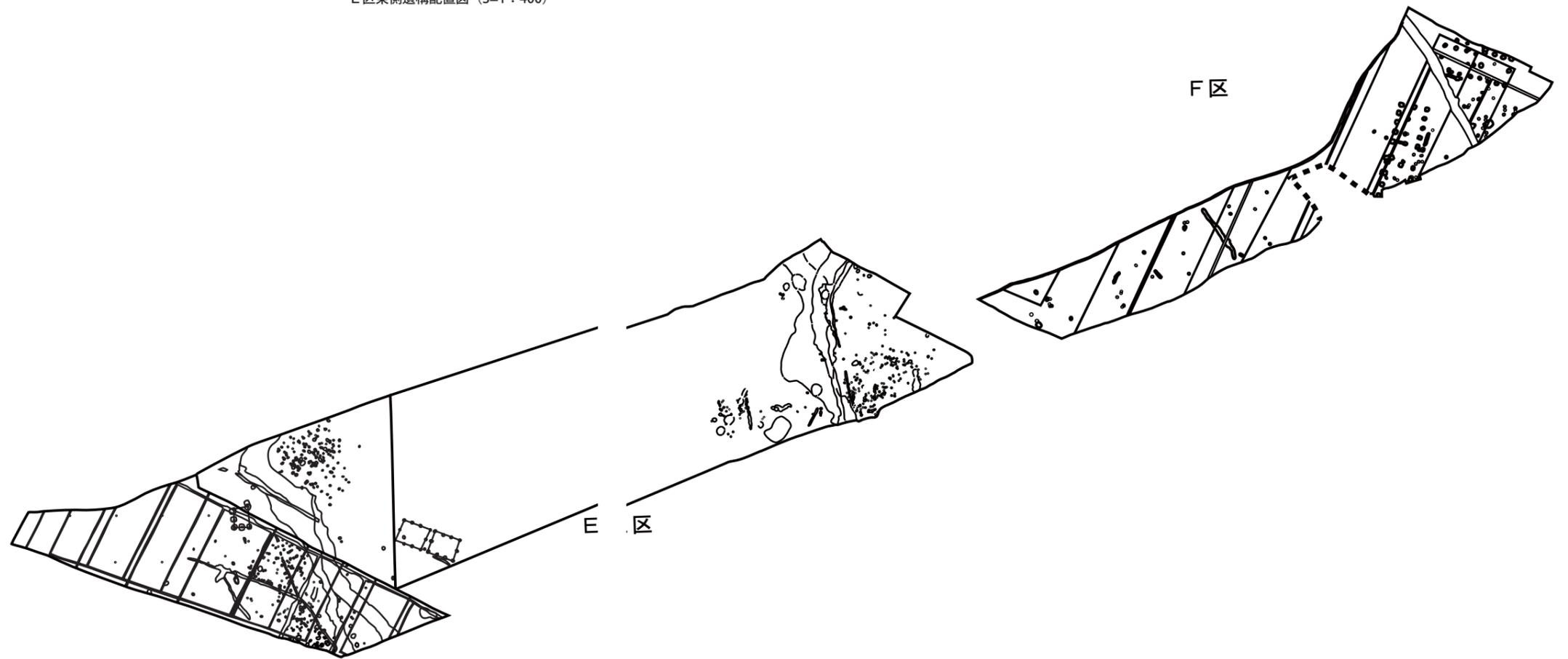
須恵器壺出土状況(平安時代)



E区東側遺構配置図 (S=1:400)



F区東側遺構配置図 (S=1:400)



平成18年度興屋川原遺跡遺構配置図

E、F区遺構配置図 (S=1:2,000)